

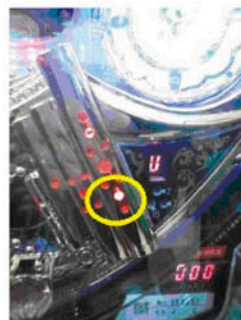
ぱちんこ 言葉物語

②

宵越し

うのです。

もう一つは地域ルールで
確率変動の翌日持ち越しを
認めているホールで日を跨
ぎ確率変動台を遊技する事
などを指します。そのため後者は「持
ち越し」という言葉も使われます。



CR EX麻雀で筆者が偶然に撮影した宵越し確変台。黄丸のランプが付いている状態では内部上確率変動状態、それ以外は外部からは判別できない

「宵越しの銭は持たねえ」という江戸っ子気質を表した有名な言葉があります。今回のぱちんこ言葉物語は「宵越し」をテーマにしたいと思います。「宵越しの銭は…」は、今日は今日で終わりという意味合いを持ちますが、ことパチンコやパチスロにおいて連日のように遊ぶユーザーにとって、とても重要な意味合いを持つ言葉として使われています。言うなれば店長とユーザーとの心理戦と言えるでしょうが、特にパチスロでは重い意味を持つ言葉です。

確率変動は残っているか

パチンコで言う「宵越し」について、一つは前日からの確率変動台が翌日も

その状態のまま残っているかどうかを探すことを意味します。内部上当たりやすくなっている確率変動状態を店舗側が気づかずに、翌日もそのままの状態になっている台をユーザーが開店時に見回って拾

特に内部確率変動状態はリセット(RAMのクリア)をかける事で消滅するので、パチンコでこの言葉が使われる事はほとんどありませんが、昨今の人件費削減などで、大きな盤面のたった1点のランプすら確認できない状況にまで陥っているホールでは、稀に宵越し状態にある台を発見できるような事もあります。

出玉救済機能を狙う

一方、パチスロにおいての「宵越し」は、一定ゲーム間でボーナス等が当選しない場合に発動される出玉救済機能を狙うことや、出玉増加機能である「ART(アシストリプレイタイム)」等が規定ゲーム数消化で発動する機種において、自己投資金額を極力少なく目標に



©DAITO GIKEN, INC. 人気の押忍!番長2はボーナス後999G消化でARTに当選



©カラーエヴァンリズも一定間ボーナス非当選で救済機能が発動するのが特徴

到達させる立ち回りの際に使われます。

昨今の機種で「宵越し」を使った立ち回りで有名となったのは、一定間ボーナス非当選で救済機能が発動する「エヴァンゲリオンシリーズ」や、ボーナスとしての役割でART機能を持つ「モンキーターン」。また現在も大人気の「押忍!番長2」でも多くのユーザーが開店前に「宵越し」という選択肢を頭に入れつつ、立ち回りをイメージしています。閉店間際の時間になると、このような救済機能を持つ機種では、ボーナス回数や最終ボーナス後経過したゲーム数をメモするユーザーが多く見られます。

難しいホールの対応

この救済機能の多くは設定変更処理では消えず、消すにはリセット(RAMクリア)など「明確に宵越しを排除す

る」を目的として処理操作を行う必要があります。ユーザー側は、これら機能も含めた機械割のデータとして攻略誌等で情報収集をしております。

ですから、宵越し機能を消された事でホールの運営意思を明確に感じ取り、信頼感は大きく崩れ離反に直結する事にもなりかねません。ホールの状況もあるでしょうが、安易な宵越し狙いの排除は利益獲得と諸刃の剣であると強く意識しなければなりません。

宵越しをめぐる明と暗の部分を書きましたが、一日単位で完結するホール営業において翌日への期待をユーザーに提起でき、ユーザーの心を繋ぎ止めることができるのは大きなポイントになります。翌日の立ち回りをイメージしながらワクワクできる事により、まるで遠足前の小学生のような気分を高揚させてくれるのは事実でしょう。

営業時間以外の時間で多くの産業がパチンコユーザーを剥ぎ取ろうとしているとき、この「宵越し」という言葉は、店側が感じるネガティブなイメージとは違う要素があります。この言葉には、パチンコを打っている時間以外にもワクワク出来る、何か未来のパチンコの一つの可能性すら感じています。(大和田敏男)

翌日に引き継ぐワクワク